

教員名	酒井 朗 (SAKAI Akira)
所 属	子ども発達教育研究センター
学 位	教育学修士 (1986 東京大学)
職 名	教授
URL/E-mail	http://www.kodomo.ocha.ac.jp/ sakai@kodomo.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

教育臨床社会学 / 校種間連携 / 不登校

## ◆主要業績

総数 (7) 件

- ・酒井朗・千葉勝吾・広崎純子・濱野玲奈 2006「高校生の進路選択に関する教育臨床学的研究(2) —進路形成過程における転機が存在とジェンダーの影響—」『お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要』第3号,2006,97-112頁
- ・酒井 朗『幼小中の連携教育による児童生徒の問題行動の抑制に関する教育臨床学的研究』平成15-17年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書(研究代表者:酒井 朗) 2006
- ・酒井朗・藤江康彦「幼小連携実践の今日的課題」お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校『子どもの学びをつなぐ—幼稚園・小学校の教師で作った接続期カリキュラム—』東洋館出版社、2006、107-124頁。

## ◆研究内容

2005年度は大きく4つのプロジェクトを進めた。

### (1) 幼小連携に関する調査

附属幼稚園小学校とのカリキュラム開発の成果を本にまとめた。

### (2) 小中移行期の学校不適応に関するパネル調査

A自治体において、2004年度に小学校を卒業した生徒を中1の2学期まで追跡調査し、小中移行にともなう学校不適応の増加を解明した。

### (3) 不登校対策のネットワーク構築に関する研究

A自治体における不登校問題に関連する諸機関のネットワークの現状を解明し、対応策の提言を行った。

### (4) 高校生の進路選択支援に関する教育臨床学的研究。

X商業高校における高校生の進路選択支援の取り組みから、進路形成過程におけるジェンダーの影響、および支援活動を通じてのボランティアの成長について論文にまとめた。

## ◆教育内容

学部：教職科目「生徒指導の研究」での指導とともに、附属学校や近隣の学校での学生インターンシップのとりまとめを行った。

大学院(前期課程)：ゼミや夜間ゼミを通じて、教育臨床社会学に関する基礎的文献購読と質的方法論の指導を行った。また、1年生2年生併せて10名以上の修士論文指導を主たる指導教員として行った。

大学院(後期課程)：各自の研究の遂行に対して指導した。学位論文のとりまとめに向けて課程博士1名、論文博士1名の準備に取りかかった。

## ◆Research Pursuits

---

In 2005, I was engaged in the research projects as below.

(1) An participatory research project on the transition process from a kindergarten to an elementary school.

We published a book with the attachment schools' teachers on the curriculum development for easing transitional pressure among pupils.

(2) A panel study to capture the changing process of the degree of students' adjustment during the transition from elementary schools to middle schools.

A three-waved panel study students was conducted to examine their school adjustment in "A" district in metropolitan Tokyo.

(3) A sociological study of the supporting network to assist "Futoko (absentee)" students.

We inspected the relationship among schools, a counseling center, a special classroom for Futoko students and NPO organizations and evaluated the functioning as network to support those students in "A" district.

(4) A clinical study of education to help students to enter colleges from a commercial high school.

## ◆Educational Pursuits

---

Undergraduate level: I had a class of "student's guidance" for teacher preparation course and managed an internship program for students who volunteered to assist students' studying at the attachment schools and a middle school nearby.

Graduate level (Master course): I had three seminars to teach the foundations of clinical sociological study of education and basics of qualitative methodology for education.

Graduate level (Doctor course): I assisted each student to go on her own study project. I helped two of them to prepare for their doctoral dissertation theses.

## ◆共同研究例

---

- ・ 近隣自治体教育委員会と共同で不登校対策委員会を設置し、基礎的調査を実施
- ・ X商業高校において、生徒の進路選択支援活動を通じ、成果を論文にまとめた
- ・ 幼小連携、幼小中連携に関する実態調査やカリキュラム開発に従事

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

不登校対策における学校・地域・関連機関のネットワーク支援の在り方について、全国調査やケーススタディを実施し、現状と課題を解明する。

X商業高校での支援活動に基づく研究成果を本にまとめる。

## ◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

---

- ・ 不登校問題のネットワーク形成に関して、自治体等との連携が可能。
- ・ 校種間連携に関して、文科省や自治体との連携が可能。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

学部では教職科目など一部しか担当しておりませんが、現代日本の教育問題について広く考えさせるテーマを提示していきたいと思います。

大学院では、研究者養成よりも、教育の実務家、管理職の方々の研修の一環として幅広く教育活動を進めていきたいと思っています。